

Promise 1 北海道産小麦に関わる企業・団体が立場を超えて オール北海道連携

すべては、北海道産小麦のために。

畑で栽培・収穫後に保管され、製粉され、小麦粉となって食品メーカーや飲食店などの手に渡り、様々な食品として人々のもとへ。小麦は生産から消費まで多くのプロセスが必要な農作物です。よい小麦・小麦粉をつくり消費者へと届けるためには、多くの関係者が力を合わせる必要があります。

2021年3月に結成された北海道産小麦コンソーシアムのメンバーは、江別製粉株式会社、木田製粉株式会社、横山製粉株式会社の北海道に拠点を置く製粉3社と、ホクレン農業協同組合連合会、北海道農業協同組合中央会、そして北海道、6者による「オール北海道」体制です。

実需者と生産者、北海道産小麦に関わる企業・団体が協調し、知識や技術を共有することによって、北海道産小麦の安定供給体制強化、価値向上、需要拡大、および小麦粉の円滑な流通の実現を目指しています。



HOKKAIDO STARは、北海道産小麦コンソーシアムが北海道の小麦に関わる人たちの「遥かなる目標への道しるべ」となることを願い取り組んでいくプロジェクトの愛称です。麦の穂をモチーフとした七芒星は、北海道産小麦が新しい北海道のリーディングブランドになることを願い、コンソーシアム6団体と生産者を7本の麦で表現したシンボルマークです。



2000年、国産小麦の流通が政府管理から民間流通へと移行しました。これを機に実需者のニーズを捉えた小麦の育種が盛んになり、美味しさと扱いやすさを兼ね備えた北海道産小麦が増え、高い評価を得ることも多くなりました。とりわけ、きたほなみとゆめちからの登場により、北海道産小麦は大手食品メーカーや飲食チェーンなどにも使われる一般的な存在となったのです。このような需要の高まりに合わせて、安定供給への意識も高まってきました。北海道産小麦が当たり前の存在になるということは、すなわち「切らしてはいけない」ということ。いつ供給がストップするかわからない小麦は使ってもらえません。同時に、キタノカオリやハルユタカなど、少ない生産量ながらも人気の小麦を守り続けていくことも大切です。国産小麦は全国各地で新品種が開発され、産地間競争が起こっています。そういった中で、北海道産小麦もこれまで以上に品質や付加価値を向上させていかなければなりません。

安定した品質で、安定した量の小麦を供給すること。生産量が少ないこだわりの小麦を、必要としている人へしっかり届けること。この両方が北海道産小麦の発展には必要です。石狩市にある北海道産小麦コンソーシアムの北海道産小麦専用定温倉庫は、一定数量の小麦の品質を維持して保管することによって、需給バランスが崩れることを防ぎ、少数銘柄や小ロット原料が需給状況に合わせて使いやすくなるなど様々な役割を果たしています。また、お菓子王国・北海道で高いニーズが見込まれる薄力粉用の新品種のブランディングに取り組むほか、これまで品種や産地といった観点で見られてきた国産小麦に品質からアプローチして、北海道産小麦のスタンダードとなる品質基準の確立を目指して活動しています。北海道産小麦が、当たり前の存在として日本の食を支え、そして、日本の食をより豊かにするために、私たちはこれからも、ここ北海道から、北海道産小麦に関する挑戦を続けていきます。



北海道産小麦コンソーシアム



北海道産小麦コンソーシアム



北海道産小麦と、挑む。

どんなときも食糧を確保できる。

好きな食べ物を自由に選ぶことができる。

そんなの当たり前か？ 当たり前じゃなかった。

ということに私たちはあらためて気づかされた。

食の安心は、自分たちの手で、不断の努力で支えていくものだ。

私たちには使命がある。

北海道産小麦の質と量を高いレベルで維持し、安定させること。

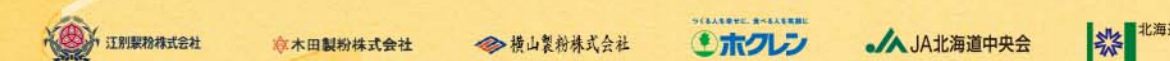
安心な毎日を、小麦に関わるすべての人に届けること。

小麦の9割を輸入に頼るこの国で、

北海道産小麦が日本の食を根底から支えられるように。

挑戦は、もう始まっている。

北海道産小麦コンソーシアム



北海道産小麦の生産から流通まで、私たちは4つの約束を掲げています。



interview

北海道の小麦生産を、一丸となって支えていく。

北海道産小麦の生産性、安全性、品質の向上を目指し、北海道産麦コンソーシアムの各組織では様々な取り組みを行っています。たとえば年数回、全道各地で圃場調査を行い産地の最新情報を収集。病気への対策や安定栽培などに関する技術情報を全道の生産者へ発信しています。また、生産段階での対策の周知に加え、安全・安心な麦の流通に取り組んでいます。北海道の生産者が消費者や製粉会社のニーズに合った小麦を生産することは、小麦の産地消促進につながるでしょう。また、北海道産小麦の安定生産は、製粉会社の計画的な工場稼働、ひいては消費者へ的小麦粉の安定供給に寄与します。北海道は、道内はもちろん日本の食にとって重要な小麦の一大産地です。この地で小麦に携わる者すべてが目線を合わせ、情報を密に共有し、生産から供給まで一貫して取り組む北海道産麦コンソーシアムには大きな意義があると思います。



一般社団法人北海道産麦協会
米粟部 特任技監
三宅 俊秀

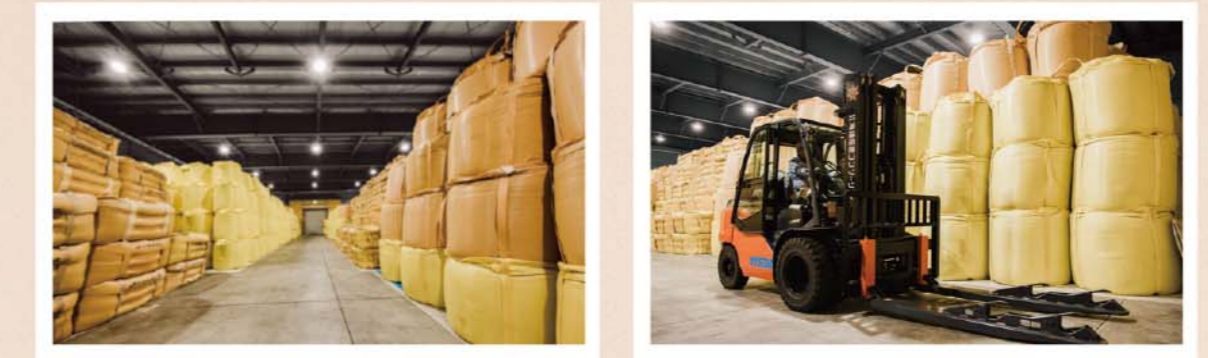
北海道産小麦の多様化する需要に対応した

Promise 3 安定供給の実現

原料小麦の専用倉庫で、供給量や品質を安定化。

生産者の技術や生産管理だけでは回避できない、天候などの影響。不作の年が続くと市場への供給量は少なくなり、品質も不安定になります。年ごとに生じる生産量や品質の差をできるだけ解消し、北海道産小麦粉の安定供給を実現することは、北海道産麦コンソーシアムの重要な使命の一つです。私たちは2022年、北海道産小麦の専用倉庫を建設しました。徹底した温度管理の下で多様な品種を保管することにより、品種ごとの特長を活かした安定的な製粉と需要動向に合わせた流通を可能に。多様化する需要に応えられるよう努めています。

小麦が製品になるまで



北海道産小麦専用定温倉庫
床面積約4000㎡の平倉庫。15℃以下に保たれた室内には、約6000t分の原料小麦を保管可能。道内各地から様々な品種の小麦が集められています。

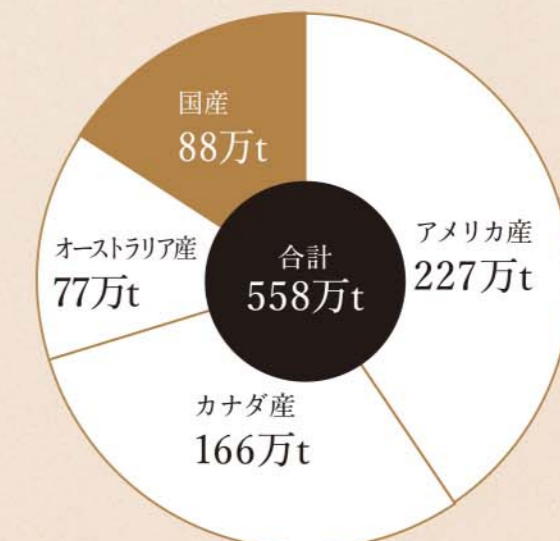
北海道産小麦を守ることで

Promise 4 日本の食の未来を育む

国産小麦を牽引する存在として、これからも。

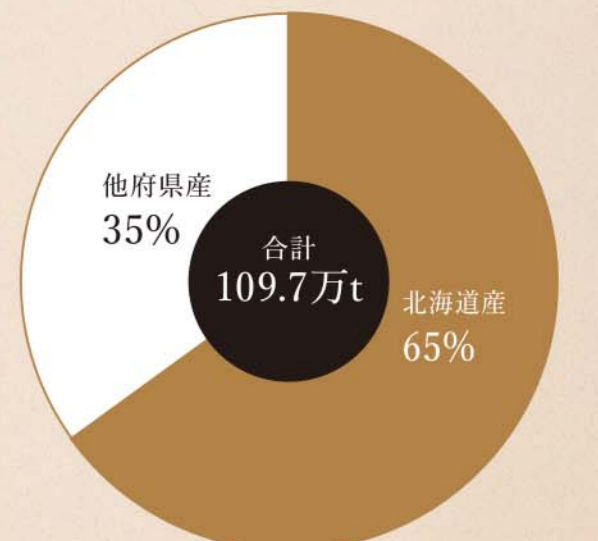
小麦は、米、トウモロコシと並ぶ世界三大穀物の一つ。日本人一人あたりの年間消費量は約30kgで、米に次ぐ第2位です。しかし、日本で消費されている小麦の大部分は海外からの輸入に頼らざるを得ない状況。その一方で、国産品への需要は高まっています。国産小麦のうちトップシェアを誇るのが北海道産。先人たちの知恵と努力で発展してきた生産技術を継承し、品質の高い北海道産小麦を毎日の食卓へ安定的にお届けできるように、そして日本の食を根底から支えられるように、私たちは挑戦を続けていきます。

小麦の日本国内流通量
(過去5カ年平均)



※流通量は過去5年(H30~R4年度)の平均数量
※出典:農林水産省「麦をめぐる最近の事情(R6年8月)」

令和5年の国産小麦に占める
北海道産小麦生産量の割合



※出典:農林水産省「麦をめぐる最近の事情(R6年8月)」

北海道産小麦は、国産小麦の代表的な存在といえます。国内流通量のうち約84%が海外産。主にアメリカ、カナダ、オーストラリアから輸入され、残り約16%の国産の中で北海道産は約65%を占めます。



Promise 2 持続的な安定生産に貢献

日本の小麦生産を担う北海道。

「北海道産小麦」と一口にいっても、広大な北海道では地域によって気象条件も土壌条件も異なります。そのため、小麦生産における各段階での連携が必要不可欠。北海道産麦コンソーシアムは、これらの生産管理をワンストップで行える体制を整えています。

- 品種開発**
 - 病害虫に強く実需のニーズを踏まえた品種開発
 - 気候変動に応じた生産技術の研究
- 種子管理**
 - 安定した小麦生産を支える種子の生産・管理
- 営農指導**
 - 地域の営農条件や経営形態に応じた生産者への営農指導
- 格付け・安全性確認**
 - 品質基準などに基づく小麦の格付け
 - 食品としての安全性確認

「秋まき」
品種登録: 2009(H21)年
主な用途: 日本麺

きたほなみ

「秋まき」
品種登録: 2011(H23)年
主な用途: パン、中華麺

ゆめちから

「秋まき」
品種登録: 2003(H15)年
主な用途: パン、中華麺

キタノカオリ

「秋まき」
品種登録: 2014(H26)年
主な用途: パン、中華麺

つるきち

新品種
北見95号 / 北海道白

「秋まき」
品種登録: 出願中(R6年8月時点)
主な用途: 菓子
北海道初の秋まき海力系小麦。

ホクレン
農業協同組合連合会
登録商標

「春まき」
品種登録: 2001(H13)年
主な用途: パン、中華麺

春よ恋

「春まき」
品種登録: 2010(H22)年
主な用途: パン、中華麺

はるきらり

「春まき」
品種登録: 1987(S62)年
主な用途: パン、中華麺

ハルユタカ

